



NME News

Nutritional Management Expert News

栄養経営士のための情報紙

2023
5月号

●発行/一般社団法人
日本栄養経営実践協会
(JANMP)
〒104-0032
東京都中央区八丁堀3-20-5
S-GATE八丁堀9階
●制作/株式会社日本医療企画

お問い合わせ先/一般社団法人 日本栄養経営実践協会 事務局 TEL.03-3553-2903 FAX.03-3553-2904 <http://nutrition-management.jp>

北陸支部 設立記念セミナー開催 仲間とともに地域栄養の明日を考えよう

会員以外の多職種の方もご参加いただき交流を



日本栄養経営実践協会 北陸支部支部長
公立松任石川中央病院
外科・部長/看護師特定行為研修センター・センター長

石井 要

2022年度、北陸地域における栄養経営士、管理栄養士の皆様の拠点として一般社団法人日本栄養経営実践協会に北陸支部が設立されました。今回、その設立を記念したセミナーを開催します。これからの多様化時代に向け、管理栄養士は、適切な栄養管理を行うだけでなく、経営の観点も考慮した活動が求められます。

セミナーでは当協会の宮澤靖代表理事を金沢にお招きし、「栄養経営士について(仮)」をテーマにした対談を予定しています。また、地域の栄養経営士による実践報告もあります。栄養経営士・栄養経営サポーターのみならず、管理栄養士・栄養士、および栄養に興味のある多職種の方に、ぜひご参加いただきたく存じます。

コロナ禍は落ち着きつつありますが、医療従事者はまだまだ変わらない日々かと思えます。久しぶりの対面セミナーとなりますので、どうぞ現地参加いただき、皆さままで交流を深めていただければ幸いです。ぜひ、奮ってご参加ください。

北陸地域での情報共有や学びを深める土台が完成



日本栄養経営実践協会 代表理事
東京医科大学病院 栄養管理科科长

宮澤 靖

当協会も北陸支部設立をもって全国7支部がそろいました。少々、設立までに時間を要してしまいましたが、北陸支部が設立できたことは、代表理事として大変うれしく思っております。

今の時代、地域による情報格差はなくなってきているものの、大きな学会やセミナーというと、やはり大都市圏が中心となっています。そういったなか、北陸という地域で情報共有や学びを深めるひとつの土台ができたことは、非常に嬉しいことだと考えております。

今後は他の支部とも連携を取りながら、北陸支部の会員の皆さまに、できる限り寄与できるような本部としての活動を行ってまいります。そして、北陸支部の皆さまには、北陸ならではの医療圏や医療文化を踏まえたご報告を、ぜひ「全国栄養経営士のつどい」で行っていただければと思います。きっとそこには、「つどい」に参加する他地域の栄養経営士にとって、たくさんのヒントが隠されていることでしょう。ぜひとも、そこには期待したいと思っております。

まずは、今回の設立記念セミナーにご参加いただき、新たな学びや仲間との交流にお役立ていただければと思います。一人でも多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

北陸支部支部長と代表理事による対談が実現
北陸支部は2022年11月12日に設立総会および第1回理事会が開催され、全国で7番目の支部として発足した。通常であれば設立から半年以内に設立記念セミナーを行うところであるが、コロナ禍の影響がまだ強く、また「参加者が会場に集

まり、交流できるセミナーにしたい」という理事からの意見もあつたため、セミナーの開催がしばらく見合わせとなっていた。7月8日に開催する設立記念セミナーは、新型コロナウイルスが類感染症に指定されてから、当協会で初めて会場参加型で開催されるセミナーとなる。

当日はメインプログラムとして、石井要北陸支部支部長と宮澤靖代表理事による対談を予定している。医師、管理栄養士と職種は違えど、長年栄養と共に医療現場の最前線を歩んできた二人の先生方の話は、きっと参考になる情報が詰まっているはずだ。ぜひ、楽しみにしていたきたい。

そのほかにも、北陸地域の栄養経営士による実践報告等も予定されているので、発表のなかで参考にご覧いただけるのは、栄養経営士として嬉しい。会場にぜひ仲間との交流を深めよう

今回のセミナーは、あえて「顔をあわせ、交流が図れる」ことに重きを置いていたが、長期にわたる行動制限が続いたため、会場開催に臆してしまう人がいるかもしれない。しかし、きちんとした対策をとれば必要以上に恐れなくてよいこと、現地で登壇者の熱を感じながら話を聞くだけでも大変な力をもらえることは、栄養経営士・栄養経営サポーターならご存じのことだろう。地元の仲間や理事の先生方と交流できる貴重な機会なので、ぜひ勇気を出して、職場の仲間や友人も誘って参加していただきた

現地会場では宮澤靖代表理事も登壇 北陸に集合し栄養経営の英知を学ぼう

日本栄養経営実践協会北陸支部の設立記念セミナーの開催が2023年7月8日(土)に決定した。5月8日に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し行動制限が解除されたことから、会場開催での実施となる(会場:石川県地場産業振興センター)。当日は、当協会の宮澤靖代表理事も現地で登壇することが決定している。

北陸支部 設立記念セミナー

申込みはこちら▶



日時: 2023年7月8日(土) 14:00~16:30(受付: 13:30~)

場所: 石川県地場産業振興センター 本館 第1研修室 ※オンラインあり

参加費: 栄養経営士・栄養経営サポーター 2,000円 / 一般 3,000円

問い合わせ先: 日本栄養経営実践協会北陸支部(日本医療企画北信越支社)

TEL:076-231-7791

第38回日本臨床栄養代謝学会学術集会 JSPEN 2023 レポート

チーム医療・病棟常駐時代の管理栄養士のあるべき姿を考える

2023年5月9〜10日に神戸コンベンションセンター(兵庫県神戸市)で第38回日本臨床栄養代謝学会学術集会が行われた。当協会からも宮澤靖代表理事を筆頭に、多数の理事・栄養経営士が発表者として登壇した。今号ではその模様の一部を紹介するとともに、栄養経営士にとって関心が高いであろう、大会2日目に行われた管理栄養士の病棟常駐に関する発表のレポートを掲載する。

大会1日目

【合同シンポジウム04】

過去の大会と同様に、今大会でも他学会と合同で行うシンポジウムが多数用意された。日本褥瘡学会・日本臨床栄養代謝学会の合同シンポジウムのテーマは「在宅褥瘡からいかに護るか?」リスクは低栄養のみならず、座長の一人を本協会の眞壁昇理事が務め、シンポジストに吉田貞夫理事、秋山和宏副代表理事らが登壇した。



眞壁昇理事が座長を務めた

吉田理事は「当院(ちゅうごん病院)における褥瘡症例の転帰と低栄養の影響について」のテーマで発表し、褥瘡例と非褥瘡例における、GLIMに



秋山和宏副代表理事も演者として登壇



事例を発表する吉田貞夫理事

よる栄養状態と退院先などの転帰についての比較検討を報告。秋山理事は「在宅褥瘡の次なる一手、連携と教育」という演題で、地域完結型医療の構築や、オンラインを活用した全国各地での勉強会の活性化が課題であると発表した。その後のディスカッションでは会場参加者から多くの質問が寄せられ、活発な意見交換が行われた。

【学術セミナー08】

アイドゥ株式会社共催の学術セミナー8では、宮澤靖代表理事が登壇。「ESPEの術後早期回復プログラムに沿った周術期管理と令和4年診療報酬改定」について講演した。



会場は満員で関心の高さがうかがえた

令和4年度診療報酬改定で新設された「入院栄養管理体制作加算」の概要を交え、栄養部門の現状と課題について説明。そのなかで宮澤代表理事は、目前に迫る令和6年度診療報酬改定に向けた対策に着手するよう、参加者に呼び掛けた。

大会2日目

【シンポジウム11】

病棟常駐で変わる管理栄養士のあり方

大会2日目のシンポジウム「診療報酬改定後の栄養士業務の変化とアウトカム」では、宮澤靖代表理事他3名の管理栄養士が登壇。近年の診療報酬改定では栄養に関する加算が増えているなか、それぞれの病院での取り組みの発表や、将来に向けての課題などが討議された。

宮澤代表理事は所属している東京医科大学病院での事例について「2019年に着任して、3年かけて管理栄養士の病棟常駐体制を実現した。2022年の診療報酬改定で特定機能病院での入院栄養管理体制作加算が新設されたため、その前後の管理栄養士の業務の変化を調査した。する

と、病棟の滞在時間が長くなるのは当然として、カンファレンスや回診も2倍になり、医師と管理栄養士の相談件数が急激に増加し、管理栄養士と他職種への提案・相談件数も増えた」と報告した。

まで作り上げてきた教育プログラムをさらに充実化させるとともに、休みのスタッフのフォロー、産休などにも対応できる盤石の体制を作り上げたい」と語った。

社会福祉法人恩賜財団済生会熊本病院栄養部の山本あゆみ氏は、「2013年に管理栄養士は7名だったが、管理栄養士の役割を拡大させ、病棟に常駐して栄養学的に患者のサポートを担う管理栄養士をめざして、2014年から病棟常駐を開始した。昨年には全病棟への配置が完了し、管理栄養士の数は21名となった。栄養部を臨床栄養室と給食管理室に分け、業務の棲み分けを行うことで、病棟常駐のできる環境を整備した」と報告した。

神奈川県済生会横浜市東部病院栄養部の工藤雄洋氏は「2007年の開院時に管理栄養士9名でスタートし、NST加算を機にNST専従で2名増員。患者支援センターの開設により入院前から患者の栄養介入を行うための2名増員。そこから病棟単位で行うサテライト型のNST稼働を目標として5年かけて5名増員。さらにはICUへの専従化や早期栄養介入管理加算により救命病棟への専従化を開始し、現在は管理栄養士21名の体制となっている」と戦略に基づく計画的な増員を行ってきたことを報告した。



自院の状況を報告する宮澤靖代表理事

が問われる時代がやってくる」と管理栄養士の役割が増えることで、責任も大きくなることを強調した。

シンポジウムの討議では、会場の聴衆から「アウトカムを示していく上で、入院・外来にかかわらず、臨床業務のなかで専門分野を特化したほうがよいのか」という質問があり、登壇者からは、まず基礎をしっかり習得し、ジェネラリストとして育成した上で、専門性を見出していくことの重要性が示された。また、部署を分けて固定化するより、ローテーションでオールーメイティの管理が出来る方が病院としては運営しやすい面もあるのでは、その点での葛藤なども論じられた。

座長からアウトカムについて問いかけられると、薬剤などと違い即効性がないことから、臨床面でのアウトカムを管理栄養士だけで示すのは難しい面があることで意見が一致した。そのなかで宮澤代表理事は「部署を拡大して運営していくためには、施設管理者に理解してもらうために、目で見える数値を出していかなければならない」と経済的なアウトカムの重要性を語った。

今後の課題として山本氏は「栄養管理の質を維持するため、これ

「病棟常駐体制を目指すためには、管理栄養士のマンパワーがこの先、より不足していくことになる」と話し、中堅からベテランの管理栄養士の価値観の改革が求められていることを強調した。

★新会員サービス「オンラインサロン」 大好評開催中!

食物アレルギーの自己申告は本人からよく話を聞き主治医とも連携を

本協会の栄養経営士・栄養経営サポーターのみが無料で参加できる「オンラインサロン」。第24回は4月24日(月)18:30より行われました。協会からは宮澤靖代表理事、吉田貞夫理事、真壁昇理事、山下茂子理事、西岡心大理事、田中智美理事が出席し、参加者からの質問に対しみんなで意見を出し合いました。

GW直前のサロンは、途中で退出される理事の先生が複数名いて少しあわただしくも、いつもの和気あいあいとした雰囲気ではじまりました。

この日2つめの質問として紹介されたのが、自称食物アレルギーへの対応について。「これを食べるとじんましんが出るような気がする」というあいまいな申告に対してどこまで対応しますかという問いに、真壁理事は「自称でもすべてアレルギーとして対応している。アナフィラキシーを重点に考え、数が多くなると皮膚科や主治医と相談する。最近では果物を食べると違和感があるOAS(Oral Allergy Syndrome)が多く、果物制限の患者が増えている。割合としては大体、300食強で十数人くらい」と自院の状況を伝えました。

田中理事は「基本的に、アレルギーですと言われたらアレルギー対応。そうなると365日提供している選択メニューからは外れるのだが、『食べられないものは自分で残すから選択メニューにして』と言

われると、アレルギーじゃなくて嗜好だったんだなと思う。本当のアレルギーなら、患者本人が『絶対出さないで』と言ってくる。あと、牡蠣などもともとリスクのある食品は使わないが、例えばオイスターソースなどの調味料も確認して、それもダメならアレルギーとして対応する」と語り、判断基準の一部を説明しました。

山下理事も自己申告には全部対応していると言いつつ「一番多い人でアレルギーが36種あった。その人用に1年分の献立をつくり、いつ入院しても良いようにしていた」と対応策を語りました。

宮澤代表理事は「OASや子どものアトピーが増えている印象がある。アレルギーは本人から話を聞き、担当医とコミュニケーションをとりながら対応している。当院では調理担当の1名が専属で作業し、20~30人分のアレルギー献立を作成している」と自院の対応を語りました。また「場所柄、外国人も多いので宗教上の食事制限がある人もいる。イスラム教のハラールなど大変だが、最近では対応可能になった」とアレルギー以外の食事制限についても対応状況を紹介しました。

治療効果を高めるためにも、患者さんにはできるだけ多くの食材をおいしく食べてもらいたいですよ。何か工夫をされている病院・施設があればぜひ事務局までお知らせください!

「オンラインサロン」は今後も月に1回のペースで実施する予定です。全国の栄養経営士や理事の先生方と直接交流できる、会員ならではの貴重な機会ですので、ぜひ奮ってご参加ください。

▼4月24日(月)の話題

- ・職場で個人目標を決めなくてはならず、悩んでいます。部下へのいいアドバイスはありますか?
- ・「これを食べるとじんましんが出る気がする」という自称アレルギーにはどう対応してる?
- ・入院栄養管理体制加算の拡大はいつですか?
- ・慢性期病院のアウトプット指標、抗生剤や輸液量の他に経管陣にアピールできるものは?
- ・経腸栄養で、食事療養費として算定できるものとできないものがあると聞いたのだが...

■栄養経営士 オンラインサロン

- ◇開催日時:5月31日(水) 6月26日(月) 18:30~20:00
- ◇参加対象:栄養経営士・栄養経営サポーター
- ◇参加費:無料
- ◇開催形式:オンライン配信(Zoom)

※お互いの顔を見ながら会話をするので、カメラ・マイク機能を使えるパソコン・タブレット等をご用意ください。
※後日、アーカイブ配信もあります。
※個別の症例の相談にはお答えできません。



2023年度「栄養経営士」資格認定基礎講習(会場/web)

病棟常駐に向け業務・人材のマネジメント能力を身につけるのは今!

病院や介護施設において栄養部門は今どのような状況に置かれているのか、そして患者・利用者の治療成績向上と施設経営の両方に貢献していくためには管理栄養士は何を考えてどう動けば良いのか。「経営・マネジメント」の視点からこれらを読み解き、これからの管理栄養士のあるべき姿である「栄養経営士」について理解していただくのが「基礎講習」です。所属や資格に関係なく、病院・施設での栄養管理についてご興味のある方ならどなたでも受講いただけます。奮ってご参加ください。

★会員は特別価格で受講できます。復習・再確認にぜひご利用ください!



講師：宮澤 靖
一般社団法人日本栄養経営実践協会 代表理事
東京医科大学病院栄養管理科 科長

〈講義内容〉

0. 「栄養経営士」に必要な能力について
1. なぜ、今栄養部門が重要になっているのか
2. 自分が勤める栄養部門の現状分析
3. 具体的な目標設定と達成に向けた実践的アプローチ
4. 部門の業務の質を高めるためのアウトカム指標とは
5. 「栄養経営士」に求められる教育と人事能力
6. 病態把握能力と臨床栄養教育

〈参加者のレポートより〉

「職場内で実践できるものがあると感じた。今後は他職種に栄養科を頼ってもらえるよう、病棟に行って行動していきたい」(病院勤務)
「給食管理方法を改革・改善した価値に、講義を聞いて改めて気づいた。今後は利用者様を診て判断し介入できる、自立・自動の管理栄養士を目指したい」(高齢者施設勤務)
「業務に妥協せず、講義で習った変革のステップをもとに勇気を出して業務変革を実践していきたい」(有床診療所勤務)
「今回勉強したことを持ち帰り、問題の提起と解決に向けて栄養科全員で取り組みたい」(特養勤務)

〈開催スケジュール〉

会場	日程	申込締切
東京	終了しました	終了しました
札幌	7月23日(日)	7月6日(木)
仙台	11月18日(土)	11月2日(木)

時間:10時~17時(予定) 受講料:【一般】8,500円【会員】3,850円

★基礎講習は勤務年数・資格に関係なく、どなたでも受講いただけます!
★全会場でweb受講を受け付けています

基礎講習のお申込み・
詳細はこちらから➡



〈お問い合わせ〉

一般社団法人日本栄養経営実践協会 事務局
TEL:03-3553-2903

栄養経営士が知っておきたい!

イベント 情報掲示板

栄養経営士に求められるのは、さまざまな情報へのアンテナを張り、自身の知識・スキルを常にアップデートしておくこと。そのための貴重な機会である、全国で開催されるイベント情報を、支部の研究会を中心に掲載します。

※新型コロナウイルス感染症対策で、イベントが中止になる場合があります。必ず最新情報を確認してください。

九州支部セミナー

第17回 管理栄養士のための基礎医学講座 管理栄養士が知っておくべき動脈硬化のガイドライン

管理栄養士に必要とされる基礎医学を学び、他職種との連携を円滑にすることを目的に九州支部で開催されている「基礎医学講座」。今回は2022年に新しいガイドラインが発表された動脈硬化を取りあげます。

- 日程：2023年7月15日(土)10:30~16:30
- 講師：三浦公志郎氏(九州女子大学家政学部栄養学科 教授/医師)
- 参加費：会員:7,000円 一般:8,000円 ※税込
- 会場：第三博多偕成ビル503(博多区博多駅南1-3-6) ※オンライン視聴あり
- 定員：会場6名、オンライン34名(先着順)
- 後援：日本栄養経営実践協会九州支部
- 主催・お問い合わせ：株式会社日本医療企画九州支社(担当:中野) TEL:092-418-2828



学会情報

日本メディカルダイエティシャン研究会(JMDS) ポストコロナ時代の管理栄養士に求められるもの

JMDSは栄養療法のスペシャリストを目指す管理栄養士が集う会で、本協会の宮澤靖代表理事が会長を務めています。今年の学術集会は札幌で開催されます。

- 日程：2023年9月23日(土)、24日(日)
- 講師：宮澤靖氏(札幌医科大学医学部) 宮澤靖氏(東京医科大学病院栄養管理科科长)ほか
- 参加費：一般:3,000円 学生:1,000円
- 会場：北海道立道民活動センター「かでの2・7」4階大会議室(札幌市中央区北2条西7丁目 道民活動センタービル) ※会期終了後オンデマンド配信予定
- 定員：80名(先着順)
- お問い合わせ：済生会小樽病院(担当:一島) TEL:0134-25-4321
- ※現地発表の一般演題を募集中です(~7/10)



協会事務局より

2023年8月期限の会員の皆様へ 【年度会費納入および資格更新のご案内】

本年8月に年度会費・会員資格の有効期限を迎える会員の皆さまに、当協会より、年度会費納入および資格更新のご案内を郵送しております。対象の方はご確認およびお手続きのほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

- 年度会費：有効期限が2022年8月20日~2023年8月19日の方
【個人正会員】10,000円
【栄養経営サポーター】8,000円
- 資格更新：会員資格が2020年8月20日~2023年8月19日の方
【個人正会員】15,000円(年度会費込み)
※申請書類・課題をご提出ください。
【栄養経営サポーター】13,000円(年度会費込み)
- 振込期限：2023年7月19日(水)
- お問い合わせ：一般社団法人日本栄養経営実践協会 事務局 TEL:03-3553-2903

セミナー情報

健康寿命延伸に向け、各世代で解決すべき 課題と対策とは【妊婦・乳幼児編】

若い女性の痩せの問題とその対策等を含め、妊娠、出産にかかわる栄養課題と対策、さらに、出生から乳幼児の時期までの栄養に関する課題と対策について、第一線で活躍されている先生方が最新の知見を紹介します。

- 日程：6月22日(金)19:00~20:30
- 講師：伊東宏晃氏(浜松医科大学産婦人科 教授) 瀧本秀美氏(医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 所長)
- 参加費：2,500円 ※クレジットカード払いのみ
- 形式：オンライン(Zoom)
- 主催・お問い合わせ：NPO法人 国際生命科学研究機構(ILSI Japan) 栄養研究部会 TEL:03-6284-0877



2023年「栄養経営士」資格認定試験はIBT方式で開催中です!

「栄養経営士」 資格認定試験

- 試験日:毎日受験可能
- 受験料:9,500円(消費税・システム利用料込み)
- 実施方法:IBT(Internet-Based Testing)方式
※インターネットを経由してスマートフォン、タブレット端末、パソコンを使用して受験
- 受験エントリー期間:通年
- 受験資格:管理栄養士(実務経験2年以上)かつ「栄養経営士」資格認定基礎講習修了者

「栄養経営士」資格認定基礎講習は
WEB・DVDによる受講も可能です!

DVD受講は3枚組、特典映像
「近森病院に学ぶ実践マネジメントのすべて」付き

くわしくは

🔍 栄養経営士

検索



一般社団法人 日本栄養経営実践協会
The Japan Association for Nutritional Management Practice

〒101-0042 東京都中央区八丁堀3-20-5 S-Gate八丁堀9F
TEL:03-3553-2903 FAX:03-3553-2904